

書道部門 作者コメント

タイトル	氏名	コメント
先駆開道	酒井 佑季	自分の将来に悩み続けていますが、子どもの幸福を第一に考え、子どもの教育に関わる道に進みたいとの思いでこの字を書きました。また、今回初めて造像記に挑戦しました。筆でシャープな字を書くことになかなか慣れず、夏の合宿では先生や先輩から多くのアドバイスをいただきながら作品と向き合いました。合宿期間を通して、書道の歴史に触れる機会にも恵まれ、より書道が好きになりました。
ありがとう	楠 歩未	私は創価大学に入学して、感謝をすることの大切さを改めて感じました。どんなに小さなことでもありがたいと言葉に出して伝えてくれた周りの人の励ましは本当に自分の原動力となりました。ここまで支えてくれた両親や友人、先輩方にたくさんの感謝の想いを込めて書きました。この言葉であるように感謝を口に出し、勇気の輪を広げていきたいです。
友	小城 萌生	地元の友達を想って書きました。
花	高橋 沙季	私は、古典が好きで昔の人の手紙を意味を調べながら書くことで内容を理解することができ、とても楽しく書きました。しかし、字が続いている部分もあり難しかったので、もっと勉強しようと思いました。
母校の精神	塚越 普	この一節は、私の高校では桜を人間一人ひとりの才能と捉えて校是とされてきました。楽しい事ばかりでなかった高校生活でしたが、深く印象に残っている一節です。書道部に入ったのを機に、この一節を自分の手で作品にして、自らの精神として留めたいと思い書きました。
我等が道	殿内 正代	書の道に勤しんできた身として、書の楽しさを更に感じ、伝えていければと思いました。
孟法師碑	松木 仁美	親孝行の美德・大切さを改めて感じながら書きました。
書譜	山口 愛花	私は高校の書道部に入部してから書譜を書き始め、何度も大会に挑戦してきました。そして今回は、高校3年間で培った力がどれ程のものなのか、そして新たな試みに挑戦したいと思い、細字で全紙を書くことを決意しました。今までの倍以上の時間をかけ、書いたことのない部分に苦戦もしました。それでも無事書き上げることができ、大きな達成感を得ることが出来ました。これからも自分の限界を超え、極めていきたいと思っています。
桜梅桃李	山下 良子	木簡という書体で桜梅桃李を表現しました。どの花にもそれぞれの良さがあり、輝く時期も違うという意味なので、自分も努力を重ね、いずれは満開の花を咲かせていきたいと思っています。
後継之志	石崎 広之	「後継」と「後続」とは異なるものであり、後方の安全地帯に身を置き、開拓の苦労も知らず、ただ後続く「後続」の人に、「後継」の責任を果たすことなどできようはずがない。「後継の人」とは、勝利の旗を打ち立てる「先駆の人」でなければならない。この事から私は、今年閉寮する友光寮の精神を受け継いだ上で、先駆者として走りきる決意を表しています。
厳愛	伊藤 萌々香	新・人間革命 25巻を読んでいる時に、この言葉に出会いました。私は厳しい愛をもった先輩に出会えたお陰で成長できました。その先輩に恩返しするため、自分を律し目の前の1人のためにどこまでも思いやれる自分になりたいと思い、厳愛という文字を書かせていただきました。

書道部門 作者コメント

師子 一 日蓮大聖人御書より	川口 瑤佳	寮でひまわり委員として2年目残らせていただいている中で、寮生の葛藤や挑戦に挑戦を重ねる姿を見て、初心を忘れている自分に気づきました。自分は今、創大という恵まれた環境の中にいます。学ぼうと思えばいつでも学べる場所で、頑張ろうと思えばそれを応援してくれる場所にいます。それと同時にたくさんの悩みを抱える場所でもあります。しかし、そんな悩みを負けないように自分の中に確固たる軸を持つことで、変化や周りの意見を恐れずにこれからもっと精進していきたい、成長して家族や周りの友人たちに何か一つでも多く語り、幸福の種を蒔いていける自分になっていくんだという思いを込めました。
青春之劇	岸 杏香	この創価大学で日々学び沢山の貴重な経験をさせていただけていることへの感謝と、労苦をいとわずにこの青春時代の今しかできないことに挑戦し続けていくという決意を込めて書きました。
「金の橋」は永遠に	谷口 梨乃	今回は創立者の漢詩を隷書体の楊峴の書を基に書かせて頂きました。楊峴の書は線や太さの強弱が特徴的で筆遣いに苦戦しましたが、一つ一つの字に、創立者の想い、そして、創立者が築いてこられた、“日中友好の「金の橋」は永遠に！”との想いを込めて制作させて頂きました。私の作品を通して、作品を見てくださった方々が、創立者が築いてくださった日中友好の絆や私の創芸展に対する力強い思いを感じて頂けたら幸いです。
勝利之道	森泉 広志	創立50周年の勝利への道を切り拓いて参ります。
江雪	山城 英之	渋い題材だったので、渋くするのがとても難しかったです。
楽静多高致	和田 由美子	漢語の意味を理解しながら、洗練された行書作品となるように仕上げました。元号が変わり、二十歳を迎えたこの年に、時代の変化とともに大人へと成長していく自分を見つめながら挑んだ作品です。
誠心誠意	岩淵 優太	私が所属している学生自治会の諸活動に対し、残りの半年間を妥協することなく活動に取り組むという思い込めてこの字を書きました。
大楠公	鎌田 正行	第30回展という節目の展覧会に創立者への誓いを込めて書きました。
汪倫に贈る	川中 純玲	大学生活を通して接してきた友達や書道部の人、昔からの友達などに感謝の気持ちを込めて作りました。訪中に向けて練習したことを思い出しながら書きました。
青春譜	窪田 美穂	“創価芸術展の意義と自身の成長を重ね合わせたとき、「青春譜」という言葉が浮かんだ。登るべき山は自分が一番知っている。勝利の頂に到達するには、何事にも揺るがない信念と周りをも照らしていける朗らかさが欠かせない。強く優しい、そういった人になりたい。”ありのままの自分と誓いを込めて書きました。
行路難	近藤 菜々子	困難が続いていても必ず追い風が吹くときがくるから、その時まで踏ん張って、風が吹いた時には風に乗って前進していこう、という希望に満ちた詩だと思っています。私は大学生活も後半戦を迎え、今後、進路や人間関係など色々なことに悩むこともあるだろうと思います。しかし、そんな時こそ希望を見失わず、自分自身と向き合って、やるべきことをしっかりとやり抜ける、そんな人になりたいという想いを込めました。

書道部門 作者コメント

英知	澤野 裕二	私は英知を磨くために、現在留学に行っております。何のために学ぶのか。身に付けた英知は、誰のために使うのか。創立者は、民衆の幸福のためであると述べられています。それを自分自身で感じてくるとともに、誓願の意を込めました。
生き抜く道	円谷 貴美	私にとって寮生活とは人間革命の鍛錬の場であり、絶対的幸福境涯の確立をできる場であると確信しています。6年間の寮生活の最後である今年度は特に、困難の連続でした。しかし、様々な姿となって現れてくれた善知識の友には互いの人間革命のチャンスをたくさんくれ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。このような使命を下された創立者池田先生にその感謝と、世界一の寮を厳護していくとの決意を作品に込めました。
自然への愛	戸張 寛子	今年は第30回展であり、創価芸術展の原点回帰として、テーマが源流となったので、自分が大学で学びたいことを決めるきっかけとなった、ジブリ映画のもののけ姫の劇中歌の歌詞を書きました。人間が自然に歩み寄っていくには、人間が1人1人が意識をすることから始まる。お互いが尊重していき、環境をつくることに希望を忘れず、これからは勉学に励んでいきます。自然への愛は木蓮の花言葉です。
世界の創価幼稚園 3つの指針	萩原 歩香	この指針は、2008年に創立者が世界6ヶ国にある創価幼稚園に贈られました。”最も大切な幸せへの道”を示して下さっており、園児だけでなく私にとっても人生において大切な指針であると考え、大切にしている言葉です。これからはこの指針を胸に感謝と成長の日々を送っていくとの決意を込めて書きました。
父子の短歌二首	山本 哲也	私は今親元を離れて暮らしています。力仕事をして家に帰るたびに、あるだけの飯を食い散らかしてそのまま寝ていました。そんな日々の中で、幼少期に父親によく言われたことを思い出して詠みました。
万葉集 ～織姫の胸の 高まり～	秋山 正彦	自分の地元、交野は織姫と彦星の発祥の地であり、その内容が示されている万葉集から一節いい和歌を取らせていただきました。
高下在心	伊澤 大地	如何なる状況だろうと他人に何を言われても自分にとって後悔のない人生にしていきたいという今後の指針を、一見魅力の伝わりづらいが自分が大好きな篆書という書体に込めて書かせていただきました。
想像x創造＝想造	泉本 晴美	最高学年になった今、改めて創価大学の建学の精神を見直した。技術が飛躍的に発達しグローバル化が進む多様な世界で、技術だけでは補えない人間の”想い”や多様な社会を受け入れるための他者への”想像力”の必要性を建学の精神から読み取った。その想像力から新しい価値を”創造”する、つまり想いながら造ることがこれから求められるのではないのだろうか。3つの”そうぞう”を作品から読めるように文字の位置などを工夫した。
笑顔	井上 美翔	私が今まで1番大切にしてきたことが「笑顔」です。また、下に書いた創立者の御指導に今まで何度も救われました。笑顔でいる人は強いと思います。その強さを笑顔の2文字に表しました。

書道部門 作者コメント

爛漫	岩崎 美華	学生生活最後の集大成として書きました。創価大学で学べたこと、出会えた多くの縁、これまで支えて下さった家族や友人、感謝の想いがいっぱいの創大への想いを込めて書きました。「爛漫」には、光り輝くさまという意味が含まれます。様々な経験をし、泣いたり笑ったりしたかけがいのない日々を過ごすことができたからこそ、この作品を書くことが出来ました。
臥龍	川上 伸春	我々一人一人が逸材であり、大学で何を学ぶのか、社会に出てからどう活躍するのかを改めて考え、自己を見つめ直すことができるように、この題材を選びました。また、私は1年生の頃の本展にて、諸葛孔明の出師表の一節を書いたので、成長を感じるためにも、劉備に仕える前の諸葛孔明の呼び名であるこの題材を選びました。
臨 張猛龍碑	多賀 勇一	1年ぶりに書道作品を作り上げました。文字のバランスを取るのが難しかったですが、力強さの点だけは表現しようと努力しました。
桜	中谷 弘美	この字には3つの意味があります。1つ目は感謝です。この4年間の感謝を創立者、家族、友人の他、全ての方々に届けようと思い、書きました。2つ目は秋桜です。私は2年間秋桜寮でたくさんの留学生と共に生活をしました。この原点を一生忘れないという気持ちを込めました。3つ目は箏曲部です。創立者は今年、私たちが演奏した国立劇場の前にある桜を通して何度も激励して下さいました。あの時の日々を思い出しながら書きました。
顔真卿祭姪文稿	菱川 楓	顔真卿は、書の道を目指す時と決めた時からずっと好きな書家です。その顔真卿の作品の中でも祭姪文稿は世の中の不条理に対する悔しさ、怒り、そして哀しみが全面にあらわされています。私は今回で最後の出品となり、卒業しますが、5年間の大学生生活で私自身もこの思いに似た感情に苛まれることが多々ありました。そのため、この作品をもって私の大学生生活の集大成とすることを決め、5年の思いをこの作品にぶつけ、閉じ込めました。
第46回入学式 創立者メッセージ	肘井 大地	出品者として参加できる最後の創芸展で、この4年間の大学生生活の感謝の思いを作品にしたいと考えました。その中で、様々な人に感謝の気持ちでいっぱいですが、自分がこの大学に來れた事がすべてのきっかけであると思い、このメッセージを選びました。
袁枚詩	藤本 果歩	創価大学で過ごした学生生活では数え切れないほどの思い出ができました。楽しかったこと、大変だったこと、喜んだこと、悔しかったこと、これらの思い出は何十年後になっても忘れることのない宝です。共に過ごした仲間との時間をこれから先も大切に残したいと思いを持って、この詩を書きました。
陶淵明詩	湯寄野 春菜	最後の創芸展なので自分が納得するまで書きました。去年より行数を増やして挑みます。やりがいがあり、書道の楽しさを実感できた作品でした。
臨 西狹頌	吉田 昌美	大学生生活最後の創芸展となるので、私の原点である書体・隸書の臨書をしました。西狹頌の特徴である真四角の文字を胴切り（正方形）の紙を用いることでより活かせるように工夫しました。篆体による変わった字も見られるので、面白さを感じていただけると嬉しいです。

書道部門 作者コメント

無限の可能性	吉原 直美	自身にとっては最後の創芸作品になるので、これからの人生の中で、大切にしたい言葉を作品にしました。自分にも、子どもたちにも、そしてすべての人に無限の可能性があるのだということを忘れないようにしたい、という思いを込め、書きあげました。
王維詩「過香積寺」	岡 璃奈	木簡は約2000年前の中国、まだ紙が発明されてなかったため代わりに木片や竹片を使って人々は文字を書いていたのです。私は今回初めて木簡の創作に挑戦しました。これまでは男性的な力強く鋭い隸書を書いてましたが従来の自分とは一変して大人の女性のような気品、優雅さ、しなやかさを文字に表しました。この作品は完全体ではなくまだ最初の段階なので、これからもっと自分の書を追求していきます。
波光海月を揺かし 星影城楼に入る	川西 智恵	綺麗な情景が頭の中で想像できるような詩を選んで書きました。字のバランスや流れを景色を浮かべながら見て貰えると嬉しいです。
桜梅桃李	竹下 暁子	この、創価の学び舎で一年半学び、寮生活をする中で本当に様々な人に出逢い、刺激を受けました。人と比べて焦る事、悩む事も多々ありましたが、そんな時桜梅桃李という言葉を読み出し、自分は自分らしく花を咲かせていけばいいという事を改めて知りました。人とくらべるのではなく、自分の今いる場所で精一杯頑張ることの大切さを伝えられたらと思い、この言葉を書かせていただきました。
タゴール「選詩集」 所蔵「私の誕生日の 器の中に」より	杉本 久吉	
百花繚乱 ～創立者 芸術頌より	吉田 悟	
豪毅	高橋 誠	

写真部門 コメント一覧

一般

名前	タイトル	コメント
羽深 由美子	雨上がり	この写真はスマートフォンで創大の景色を撮りました。 創大は私にとってワクワクする場所です。なぜなら、緑が豊かでこんなにも美しい景色を毎日みることが出来るからです。このような場所で学べることを心から誇りに思います。
永井靖二	桜の学び舎2019	寒緋桜からはじまり大島桜、染井吉野、八重桜など2,500本の多彩な桜が楽しめる創価のキャンパス。遠くには、富士が見えるぞ。 創立者に見守られながら厳寒の冬を乗り越え桜花爛漫の春へ。冬は必ず春となる――。人生もかくあれ！
遠藤昌美	小波（さざなみ）	ゼミ合宿で行った宮古島の海で撮った1枚。 東日本大震災以降、海に行ったことがありませんでしたが久しぶりに見た海を美しいと思い、色々考えさせられた出来事だったため選ばせて頂きました。 場所は違えど海は繋がっているし、綺麗で穏やかな海が牙をむくこともあるということに改めて感じました。
岡林 あおぞら	故郷	10年ぶりに帰る故郷。 あちらこちらに町おこし作戦か？ 駅や観光地までできていた。 思い出しながら歩く懐かしい道。 まだ誰にも知られていない観光スポットで横倉山を一枚。 川に移る山に夢中な川に移る自分の顔を見て一言。まだ子供だったか。

写真部門 コメント一覧

岡林 あおぞら	宝島	沖縄の海に住むヤドカリ。 出てくるまでスタンバイして待った時間約5分。 その瞬間を見事に捉えた一枚です。 同時に、「いつでも家に帰れるなんて、なんて贅沢な。」と思った一枚。
高山希望	豪雨の爪痕―福祉施設	撮影場所：広島県三原市大和町 一年前の豪雨の爪痕は未だ残っています。テレビでももうこの豪雨災害の情報は入って来ませんが、いまだに爪痕と共に生きている方々もいらっしゃることを伝えたくこの写真を撮りました。 撮影した場所は特別養護老人ホームですが、一階は土砂で壊され、一部は埋まったままでした。
高山希望	市民の心の支え	撮影場所：広島県広島市 広島城三代目天守は広島の前爆からの復興のシンボルでもありました。 復元してから六十年以上経った今でも広島の前街を見守っています。
山下舞愛	大きくなるんだ！ いつか、この空を覆うほどに！	同じ部屋で暮らしている観葉植物を主役に写真を撮ってみたいと思い、撮影しました。 場所は自室のベランダ、時期は6月頃です。買って来たばかりの頃は、丁寧に扱わなければ折れてしまうのではないかと、思う程に小さかったのですが、少し目を離すといつの間にか背を伸ばし、新たな葉をつける、その生命力には驚かされてばかりです。力強い生命の在り方を表現したいと思い、シャッターを切りました。

写真部門 コメント一覧

山下舞愛	旅立ちの季節	桜が綺麗だったので、バスを使わずに歩いて帰ろうと思い、その道中の富士美術館横の歩道橋から撮影しました。 桜の季節は、旅立ちの季節です。 何かと大変なことが多い季節ではありますが、短い時を一生懸命に咲いている桜の花を見ると、つられて頑張ろうという気持ちになってしまいます。この作品を見た人にも、この感動が伝わると嬉しいです。
山田広大	DawnDrawsNear風に抱かれて	夜明け前とはとてつもなく大きい苦しみとかすかな希望を感じる瞬間だろう。 人はみな大なり小なり悩みを持って生きている。目標が大きすぎて全く前に進めていないように感じてしまう。周り比べてしまい、自分らしさがわからなくなる。大人が言うことは頭では理解できるが、心が言うことを聞かない。 いつもの散歩道、冷たい風が優しく吹き、ササーと草がこすれた音がする。音がする方を見ると空が目に入った。ほんのりと焼けた空だ。よく見る景色だ。特別なことは何もない。 小さな変化に感動を、今あるものに感謝を。
酒井萌衣	無限	数えてたら「あれ？」となるもの集めてみました。 そして「無限」に見えるかも？
小川小春	Dusk, India	インド留学中に各地で撮った夕暮れの写真です。 一般的にインド、という国のイメージからは少し違った風景になりました。
小川小春	インドにて	インドで撮った印象的な写真です。 どこを切り取っても、面白い。物語が生まれる。それがインドです。

写真部門 コメント一覧

小川小春	春の息吹	創価大学の桜を写ルンです撮影しました。 春の淡い夕暮れに映える桜の木を下から撮りました。
松岡佐耶	継承	デンマーク留学中に訪れた、アスコーホイスコーレの池田ダムから撮影。 実は100年ほど前、ここの校長のお嬢さんが牧口常三郎先生にポストカードを送ったそうです。無事に届いたのか、そこに至った経緯は定かではありません。時は流れ、2000年、創立者と現地の方々の計らいで、創大とアスコー校の交流開始。 この縁は偶然ではないと思います。100年前のポストカードの写真と同じアングルからカメラを構えた時、「託すよ」と言われた気がしました。アスコー校を象徴する三角の屋根は当時はなかったそうですが、時代は流れても、変わらず受け継がれているものを感じました。
石井美優	ねえ、やっぱり行っちゃうの？	学生寮に入るため家を出る前に、祖母の犬“こはる”と散歩した時の一枚。 市内を見渡せる堤防の上で立ち止まり、沈んでゆく夕日を見つめる“こはる”。黄昏れて何を思っているのだろう。その背中からは何かを惜しむ哀愁が漂う。 沈む夕日なのか、それともそれとなく感じる、長く一緒にいた人間との別れだろうか。 撮影者としては、後者であってほしいものだ。
石井美優	緊張	鎌倉・鶴岡八幡宮にて開催された流鏝馬の一枚。 素駆(すばせ)を終えて戻ってくる、初陣して間もない葦毛の馬。昨年度に初陣を果たした一人の射手が付きっきりで練習したというが、その表情にはこれから始まる競射への不安や緊張が感ぜられる。

写真部門 コメント一覧

石原玲菜	日々	今年は18歳の夏で、初めて夏を東京で迎えました。 東京には沢山のモノとヒトがいて、沢山の思い出ができて「東京にないものなんてない」と思いました。夏季休暇中に地元へ帰り、大好きな先輩や友人に会いました。 私は目の前の事に精一杯で大切な事を忘れてしまっていました。私は夏が好きです。蝉の声も溶けたアイスも小麦色に焼けた肌もすべて好きです。私には、まだ知らない事やわからない事が沢山あり、毎日悩んでばかりの日々です。ですが夏と人は、いつまでも好きでいたいと思えるそんな夏でした。
川西智恵	色彩	北海道で撮影したものです。 どこか懐かしい感じを感じ取ってもらえればと思います。
川端光子	トンネルの向こう	トンネルを抜けたらどんな景色が見えるのか、 わくわくするけれどずっとこのままでもいいようなそんな気持ち。
大内 マルセロ	FREEDOM	「自由」という言葉が大好きで、人間や動物がありのまま、 自由な動きをしている姿をカメラに収めました。
大内 マルセロ	家族写真・はい、チーズ！	熊谷のある公園にて、満開の桜の美しさに触れました。 それと同時に、家族の美しさを感じ、シャッターを押しました。
大内 マルセロ	希望の道	私は、創立者の一本の道の詩と写真を拝見した際に、衝撃を受け、感動しました。 いつか必ずや、自分の目で、この一本の道を拝見したいという気持ちになり、実現ができ、何より嬉しく思います。

写真部門 コメント一覧

大内 マルセロ	心を癒す春	私は、花の美しさや、鳥の音などに触れることが多くあります。 自然の中に足を運び、自然と対話をし、リフレッシュをしています。春はいつも私の心を豊かにしてくれます。
大内 マルセロ	絆	創始者から、教えていただいた「親孝行」のことが頭に浮かびました。 一年前に他界した、母親のことを思い出し、母親の分まで頑張れると感じました。
土居伸一	50年先もずっと	2019年4月、創価大学キャンパス内にて撮影。 創価大学に入学して初めて感動したのが、池田記念講堂前の夜桜でした。以来、毎年この場所で様々な写真を撮りました。 今、創価大学では、創立50周年に向けて様々な取り組みが行われていますが、50年先も創大生の心を動かす美しい桜が咲いていて欲しいと込めて、このタイトルをつけました。
土居伸一	いざ、全国制覇へ。	2019年6月、東京ドームにて撮影。 全日本大学野球選手権大会の試合で奮闘する創大野球部の写真です。 写真で野球を伝えるということを考えながら、プロアマ問わず試合を撮影してきました。 試合を撮る際、走る・投げる・取る・打つという野球の基本的な動作と、互いに励ましあうこと、応援してくださる人々への感謝という創大野球部の姿に注目しました。 全国制覇への道へ向かって、今日も創大野球部は汗を流していることでしょう。

写真部門 コメント一覧

土居伸一	夏の琵琶湖を輝かせて	2019年8月、滋賀県大津市にて撮影。 毎年撮りに行く「びわ湖大花火大会」のフィナーレの様子です。 日本一の湖である琵琶湖で打ち上がる花火の姿は、ダイナミックさと美しさを兼ね備えています。 滋賀の夏の風物詩である「びわ湖大花火大会」を見ながら、夏の思い出を振り返って頂けると嬉しいです。
土居伸一	太陽のように	2019年8月、大阪市・長居植物園にて撮影。 英語でひまわりはSunflowerと言いますが、咲き誇るひまわりの形や姿から太陽のように見えたことから、このように表現したのだと思います。 自らの姿を通して見る人を励ますひまわりの姿から、自身の人生のど真ん中に置きたいと思いながら撮りました。
和智直人	己が道をゆく	この写真も留学中に撮ったものです。 十分という場所でランタンをあげたり、線路に座れたりと様々なことを楽しめる場所です。なにがあっても、自分で決めた道を歩いていきたいとの思いを込めて撮りました。

部員

名前	タイトル	コメント
伊藤真緒	蜉蝣（かげろう）	蜉蝣という虫の体が弱く脆いように、地元の風景も友達も移り変わっていく様子を表現しました。 デジタルの写真をフィルムのようにレタッチすることで儚さや懐かしさを表しました。

写真部門 コメント一覧

伊藤真緒	雑踏	大阪へ旅行に行った際に大阪駅へ向かう人々の様子を写真に収めました。 フィルムカメラで撮った写真なので、フィルム独特の色味や雰囲気を表すことができました。 一人一人歩き方も服も歩幅も違うということから、個性を持つことへの肯定に繋がっていると思います。
川相亜笑	「なんだ、君は？」	緑のbody 軽快なjump 俺たち見た目は違うけど 似た者同士の仲良しさ おう、バッタさんこんにちは やあ、カエルさんお元気かい？ いつものように挨拶ひとつ そこに見慣れぬ黒い影 「『なんだ、君は？』ってか そうです、ワタシが■■■■■■■■です」 (パシャッ！)

写真部門 コメント一覧

川相亜笑	What's identity...?	まじめ?おとなしい?冷静? 眼鏡かけてるとさ、 だいたい眼鏡にちなんだ印象持たれがち。 もうちょっとこう、眼鏡関係なしに自分を見てほしいと思わへん? 眼鏡は体の一部とちゃうんやからさ。 そこが不服なんよな。 眼鏡、とります。 (まあ眼鏡とったところでって話やけどさあ…) (本当の自分って、なんなんやろ……)
川相亜笑	ああ、しあわせの…	ちょっと休憩、失礼するぜ。 なに、無賃乗車はいつものことさ。 お礼?そうさな、 俺があんたの靴に偶然止まった『幸運』ってことで、 どうだい? (とんぼ…古来より縁起が良く幸運をもたらす虫として扱われる。勝虫とも。)
川相亜笑	らぶ ふお～えばあ	ずっと、ずっと、愛しています。 今までも、これからも。

写真部門 コメント一覧

熊谷 きとえ	月光	カナダのルイーズ湖にて日没頃に撮影。凍った湖を真ん中まで歩き、ふと山の方を振り返ると東山魁夷の世界が広がっていた。 夜になる直前の空色とほんのり灯る月、針葉樹林の濃い青、雪が周りの色をわずかに反射させて青みがかっている様子に見惚れた。雪によって辺りの音が吸収された静かな世界でシャッター音が鳴る光景は非常に神秘的な瞬間だった。
熊谷 きとえ	前進	山梨の電車の先頭車両にて撮影。電車を操る車掌さんの手に注目しています。白手袋と褐色の肌、機材と外の緑がとても良いなと思っています。 電車が進む様子を見ていてワクワクする気持ちをこの写真を通して味わってもらえたら嬉しいです。
熊谷 きとえ	天空の掃除屋	朝8時頃、秋葉原の大通りに面しているビルにて撮影。青い空と白い雲が窓ガラスに反射して、清掃員の方が空を掃除しているように見えたのが印象的だった。 窓にあるカラフルな広告も虹のようで美しいと感じた。縦にすることで空がより広く見えるようにし、清掃員が不思議な状態になるようにした。
熊谷 きとえ	冬の湖	カナダのルイーズ湖にて1月頃に撮影。冬の湖は雪に覆われ湖の上を歩いたりスケートしたりできる。湖である事を思い出させるような看板が印象的だった。 歩いている人とロッキー山脈を組み合わせることで自然の雄大さを伝えようとした。辺り一面がモノクロの中で小屋が一際目立ち雪国らしかったので撮った。モノクロと鮮やかな世界が共にある様子を表現してみた。

写真部門 コメント一覧

佐々木 正晴	beautiful days	きれいな夜景であっても、地元の人たちにとっては当たり前の景色であり、いつも通りの日常である。 そういったことを考えて撮影しました。
佐々木 正晴	beautiful harmony	川越氷川神社にて撮影。 彩鮮やかに並ぶ数多くの風鈴が美しい Harmonyを奏でていました。
佐々木 正晴	雅	金沢にて撮影。 加賀100万石の伝統や堂々とした風格を感じることができます。
染谷竜舞	Zzz…	動物園などでは決して見ることの出来ない、自然の中でのびのびと暮らすうさぎは非常に珍しいです。今にも寝そうなうさぎたちを見ていると私まで眠たくなってきました。可愛いで…す……ね……… Zzz…
染谷竜舞	なついろ	様々な場所へ足を運び、私の思う夏らしいものを撮ってみました。らしさといっても被写体によっては千差万別であり、人それぞれで目に映るものは異なると思います。このことから、夏はそれぞれが個性豊かな色を見せてくれるという意味の「夏色」と、作品を見てくださる方々にあの日のことを思い出してほしいという意味の「懐色」と、二つの意味を込めて「なついろ」にしました。
日野裕太	「何これ！何これ！」	水族館でクラゲ水槽を見ている子供達 見慣れない生き物に興味津々な様子で、水槽を指差しながら楽しげに会話している。 そんな姿を見ていると、私が初めてクラゲを見た時の記憶が蘇るような感じました。

写真部門 コメント一覧

日野裕太	誘い	水族館で出会った一匹のアカクラゲ もっと近くで見たい、その手に触れてみたい、そこへ一緒に連れて行ってほしい、ああ、水槽のガラスが邪魔ではない。 そんな危険な衝動を掻き立てる姿を少しでも表現できたらと思い撮影しました。
日野裕太	折り成す	折り紙をしている一人の男 明かりが1つ灯る部屋の中で男は作品制作を始める。 「国籍とか年齢に関係なく人々の心に残る作品を作り上げたい」と男は語る。 紙を折り始めると、僅かにあった会話すら無くなり、ただ紙の重なるような音が部屋に響き続けていった。 男の情熱と何十、何百もの折り線が1つの夢を織り成していく。
松尾俊希	君と夏が来た	同級生の子と大阪に撮影会に出向いた際 淀川の河川敷で撮ったものです その日は雨が上がったばかりで雲の隙間から光が差し込む様子がとても綺麗でした 遠く離れた位置に立つ彼女がまるでその景色の一部になったようで息を呑み、思わずシャッターを切りました 風になびくスカートがその日の爽やかな風情を感じさせてくれます
松尾俊希	暁鐘（ぎょうしょう）	雨上がりの新宿都庁展望台から見た景色でした 荘厳さに打ちひしがれましたがそれと同時にその景色を創立者池田先生と重ねる自分もそこには居ました この写真は僕にとって人間世紀の時代を切り開き、先駆者として最初の鐘を鳴らすのはまさしく僕たち創大生でなければならないのだという自覚を改めて感じさせてくれる一枚です

写真部門 コメント一覧

松尾俊希	星屑	雨が降っているクラブ終わりに関西創価学園の最寄駅である河内磐船駅のホームで水たまりができていたので避けようとしたがふと見たらコンクリートの粒や水面に浮かぶ塵が水面に反射してまるで星空のように見えたのでつい撮ってしまいました それ以来僕は雨の日が僕にだけ見せる景色が大好きです
松尾俊希	ママも居るよ	当時僕はよく一人でお気に入りのスポットでもある「生駒山上遊園地」にカメラを持って出かけていました 人も少なかったため途中父親と子供の二人で来ていた親子連れと仲良くなり互いの身の上話をしていた所 父親は子供が生まれた際妻を難産により亡くなってしまったらしく、よく夫婦で来ていた遊園地に子供を連れて来ていたと言いました ただ、僕にはどうしても彼らの横に立つ木が母親に見えて仕方なかったのです
松田悠希	「ん？」	この写真はヒツジが何かに気づいたようにカメラに向かってくる様子を広角レンズで撮影しました。 タイトルはヒツジの気持ちに立ってつけました。
松田悠希	その先へ	この写真はスローシャッターで撮ることによってスピード感を演出し、カーブの先に続く景色を想像していただけるようなタイトルにしました。
宮下優羽	Nostalgia	名古屋港の遊園地。 錆びれた遊園地の寂しさ。まるでミニチュアのような動いていないメリーゴーランド。キラキラ煌めく場所に行ったことがなくても、懐かしさを覚えるような世界になりました。

写真部門 コメント一覧

宮下優羽	置いてけぼり	早朝の渋谷。 誰も気をとめず歩き去っていく。ゴミたちは置いてけぼり。さっきまで一緒にいたのにいつしか街に置いてけぼりにされてしまう。周りを見渡せば、ゴミで囲まれている。どうして、ここに捨てられなければならないのか。あなたはゴミをちゃんと捨ててあげてますか？
宮下優羽	帰路	お台場。 1列にならぶシルエット。夕暮れの世界に温かさを感じます。日曜日の夕方のような寂しさも同時に感じます。
宮下優羽	諦観	江ノ島。福島県の牧場。 人に近い動物達。ふとした瞬間の悲しい目は可愛い面以上に私たちに何かを伝えている気がする。人間社会に似た哀愁を感じる。生きるための諦めも感じるかもしれません。
村本将哉	晩夏に白音を	福島にある緑の美しい沼の一景です。9月上旬のこの緑でも十分美しいですが、新緑の頃は水面に沢山のボートが浮かび、楽しい音が聞こえるのが想像できると思います。 この日は一つの船が白波を立て、彩を失い始めた寂しい山中に音が添えられました。
日野裕太	私の歩く道	小さな靴と、一人の女性 かつての自分と今の自分 かつて追いかけた夢と今、目指している目標 たとえ2つの間に大きなギャップがあったとしても 自分がその道を歩いて来たことを誰も否定できない かつての自分を胸に抱え、今の私はこの道を歩み続けていく

華道部門 コメント一覧

タイトル	氏名	花材	コメント
自分らしく	紀村智咲	・ニューサイラン(赤) ・ハイブリッドキース(白) ・アンスリウム(赤)	今回は、凛とした感じで生けてみました。最初、上手く生けれなくて大変でしたが、自分らしさを表現することができたので良かったです。
鮮彩	中里真有	・野ばら ・アスター(ラベンダー色) ・ケイトウ(オレンジ) ・ドラセナ(スノーホワイト)	オレンジと紫という秋らしい色味になりました。色が変わった野ばらを使えて嬉しいです。野ばらの実が可愛らしく、生けていて楽しかったです。
天高く 馬肥ゆる秋	三淵優斗	・シマハラン ・サガギク ・ハラン ・スプレーマム(緑)	秋という季節に合う花を選び、その花に自分の気持ちを込めて生けました。初めての創大祭ということもあって、右も左も分からない状態でした。不安もありながら今までにない新たな体験をすることができて楽しかったです。たくさんの方に支えてもらって作品を作ることができました。ありがとうございます。これが今の僕の気持ちです。
秋の夜	宇野 怜花	・つるうめもどき ・ミヤマサイコ ・ケイトウ(赤) ・リンドウ(青系) ・ススキ	創芸展期間にピッタリな秋を代表するお花を生けました。黄色のミヤマサイコで月の光をイメージしました。大きな流れをつくり、のびのびと表現しました。
エゴン・シーレ 「ひまわり」 より	菅生 梨々子	・スターキス (ピュアダイヤモンド) ・ワレモコウ ・クラスペディア	今年の夏、美術館でシーレの「ひまわり」を見たとき、なんとも言えない感情が自分の中に湧いた。果てる生命と新しく生まれる生命、どちらも美しい。
ぬくもり	馬場 清美	・ハラン ・ピンポンマム(黄) ・ヒペリカム(赤)	今回は、曲線の流れを美しく出すことを意識して生けました。菊の緊張感とハランの丸みの対比でバランスを取り、すっきりとした印象に、仕上げました。

華道部門 コメント一覧

可能性	高橋 七海	・ワレモコウ ・シュロ ・アリウムシューベルティ ・キク(アナスタシア)(白)	「自分にも友達にも誰にでも無限の可能性がある！ このことを頭ではわかっていても、つい人と比べてしまったり、自分のことを信じられなくなってしまうたりすると思います。そんな自分の心と戦いながら自分の可能性を開花させていく決意とまた誰かの決意の後押しができるようにと思いを含めました。」
あなたの輝き	酒井 萌花	・オクラレルカ ・カスミ草 ・シンフォリカルポス	人は誰もが輝きを秘めているという思いを含めて生けました。はっきりとは見えなくても、確かに光は灯っている…。観てくれた方が1人でも多く、新しい挑戦や目標に向かって踏み出そうと思って下されば幸いです。私も頑張ります。
秋のかおり	小川 小春	・ドウダンツツジ ・ナルコラン ・キクノアナスタシア(黄) ・スプレーマム(ピンク) ・スプレーマム(オレンジ系)	学生生活最後にして初の出展です。華道は全くの初心者でしたが、お稽古を通して少しずつ勉強させて頂きました。ドウダンツツジの枝の美しい形を生かして秋の花とともに生けました。草花のダイナミックな生命力を感じてください。

美術部門 作者コメント

平面作品

『ある五月の夕暮れ ～一瞬の静寂～』 創大職員 永井靖二



『西に満々たる夕陽 東に満月煌々たり』

立川から八王子へ。晴れの日も雨の日も遠くに富士を眺めながら、40年間通い続けた多摩川沿岸の道。見上げればどこまでも続く宇宙（そら）。

「朝々仏と共に起き、夕々仏と共に臥す」

人生かくもあれ！

『いきが、できない』 創大1年 宮井陽子



作者コメントなし

美術部門 作者コメント

『いつかまた、心惹かれるこの国へ』 創大1年 三國花蓮



夏季語学研修でイギリスのバッキンガムに行った際、ホストファミリーが連れて行って下さった世界遺産の「ストウガーデン」を描きました。私にとってイギリスは念願の行きたかった国であり、初めての海外経験だったため、1日1日がかげがえのない宝となりました。創立者もご覧になられた世界の美しさにふれ、より地球や人々の平和を守りたいとの思いが強まりました。

今よりさらに成長した姿で、必ず再び創大生としてイギリスに行くとの誓いを込めて描いた作品です。

『いのちの鼓動』 創大1年 湯川春香



人間と、人間の周りに溢れているもの全ての命が躍動する様を描きました。

この絵を見てくださった人が人の心の鼓動が高鳴り、幸せな気持ちになって頂ければ嬉しいです。

美術部門 作者コメント

『咲み』 創大4年 東郷良咲



創大生として最後の創芸展を迎えるにあたり、創大に送り出してくれた家族や支えてくれた方々、いつも見守ってくださる創立者・奥様へ感謝の思い、そして一生涯創価の金看板を背負い、芸術という平和文化を広めていくという決意を作品に込めたいと思いました。

この絵に描かれている動物は皆、私が今までに日本画で描いてきた動物たちで、日本画に出会ってから今までの人生の軌跡を表しています。また私の好きな言葉である「桜梅桃李」のそれぞれの花や、創立者のお好きな萩、それぞれ「勝利」「平和」「幸福」「希望」「感謝」の花言葉を持つ月桂樹、オリーブ、ドラセナ、ガーベラ、カンパニュラなどを描き、これまでの自分の人生や思い、これからの決意などを表しています。

『渴望』 創大2年 五十嵐涼



手の形は完全に指の先が上に向いておらず、掌を平行になるようにしています。そこから生える食虫植物は虫を待ち構える一種のものであり、血の色や模様で毒々しさを表しました。己の手が異形と化しても求める貪欲さをこの絵に表そうとしました。

美術部門 作者コメント

『郷愁』 創大3年 川上真由



飛行機から見た自分の生まれ育った町を描きました。初めて一人で地元から東京へ向かうときに見た景色であり、地元を好きであるという気持ちや地元で育ったひと時ひと時を思い返すとともに、東京という新天地で頑張りたいという決意もこもっています。また、将来地元に貢献したいという思いも乗せて描きました。絵本のような懐かしさや安心感を感じる色遣いを意識しました。

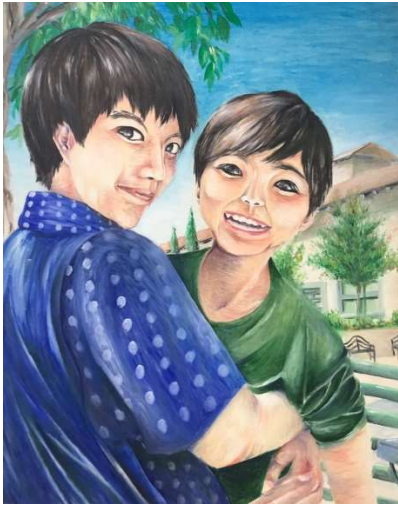
『子亀と海』 創大1年 金輪雄生



神秘と生命を象徴できる亀をモチーフに描きました。劇的な出発になったと思います。この子亀の未来を思い描いて見てみてください。

美術部門 作者コメント

『再会』 創大4年 秋山英彦



この作品では 中学生の時にアメリカで出会った男の子と8年ぶりにアメリカ創価大学で再会し、その時の喜びを作品にしました。また再会出来るようにと、そして見てくださる方に笑顔になってもらえるようにと気持ちを込めて描きました。

『Silent 叫び』 創大1年 宮井智子



しかくは口です。血が枯れるほどに叫び切って、意味もなく涙が出てくるような。背景の赤は血も枯れる叫びと激情を、青い亀裂は報われたかった思いと今に繋がる希望を表しています。口が鉛筆で書いてあるのは、鉛筆が学校や職場で使うものだからです。これは個人的な自分の自己満足です。学校でひとり、声も出せずに叫ぶしかできなかったあの時の自分を報ってあげただけです。願わくば、同じような人も共に報われますように。

美術部門 作者コメント

『人物群像 #1』 創大3年 斉木亜理沙



この作品は、友人たちを描いていく連作の記念すべき第1作です。大学時代は素晴らしい友人に多く出会いました。幾多の人生を変えるような出会いを刻みました。彼らが今生きているというこの非常に美しい事実、これを絵画という私なりの形で残していければ幸いです。

『水彩画』 創大1年 金子真美



この作品では、空間の温かさを出せればいいと思い、描きました。コーヒー缶のへこみが難しかったです。

美術部門 作者コメント

『成長』 創大4年 川元敦子



以前、岐阜県に旅行した際に見た「恵那峡の大フジ」を描きました。この大フジは樹齢がおよそ 400 年以上といわれ根元の周囲が 2.7 メートルもあり、県下でもまれな大フジみたいです。初めて見た時に受けたインパクトを出せるように描きました。

『静謐』 創大2年 五十嵐涼



線画無しでデジタル画を作成したのは今回が初めてであり、左右のバランスを崩さないように描くのが大変でした。棺の中に横たわる人物は、男か女かというはっきりとした区別をつけていません。性別不詳の人間を棺の中に入れ、顔の半分を映さずにコントラストを強くすることで、見ている方々の想像がしやすいようにしました。

美術部門 作者コメント

『背中』 創大4年 千田俊秀



今年、最後の創芸展は僕の地元である北海道を巡回するということで、感謝の思いを込め、僕の両親の背中を描きました。22年間見てきた二人の背中です。いつかこの背中に向こう側へ、親孝行できるよう自分の夢に向かって進んでいく、人生を勝ち進んでいくという決意で描きました。

『ソコにいるよ』 創大1年 阿乗勇樹



オオサンショウウオが川底に身を潜めている様子を下の方から見上げた構図になっています。下から見た水面とオオサンショウウオの迫力を表現しようと思いこの構図にしました。水面は銀箔を使い表現しました。また、オオサンショウウオは茶色だけでなく様々な色を使い、作品に面白みが出るように工夫しました。

美術部門 作者コメント

『だから今すぐ振り絞る』 創大2年 加藤匠



地平線がどこまでかを知るために、今という時間は用意されている訳じゃない。距離を最初から決めつけることはもったいないし、それを最初から決めるつける資格は一切持っていない。だから、その地平線へ僕ら向かって行く冒険をしている。もし、地平線の果てを目指すことを諦めてしまったのなら、冒険の楽しみや、目的が霞んで見えなくなって、やがて光を失うだろう。

『黄昏時』 創大3年 佐々木慈美



この作品は、最近私が実際に見て感動した風景を写真に撮ってそれをもとに描いたものです。タイトルの「黄昏時」は、一般的に夕方の時間のことをいいます。昼から夜に移り変わる瞬間というのと、私自身が今年は様々なことで変化を感じることがあり、「変化する」という部分で重なりました。「変化」と言っても、悲しい、寂しい、嬉しいと感ずることなど様々な変化がありますが、黄昏時を過ぎて夜になり、前向きな明日を迎えられる気持ちになれるようにと思い、この作品を描きました。

美術部門 作者コメント

『玉葱』 創大1年 山田彩加



玉葱のころころした感じと鮮やかな橙色に惹かれて描きたいと思い、この作品を描きました。玉葱の薄い皮が付いている感じを表現できたのが良かったと思います。こだわりとしては、多くの色を使う事で、深みを出せたところです。暗い部分と明るい部分のコントラストを表現できたのも良かったです。

『透明水彩 2019 春・夏』 創大2年 重森幸恵



今年から書き溜めた写真サイズ、ハガキサイズの絵に加え私の作品としては大きいサイズの中央の絵をひとつの額縁に集めました。作品の中には私の好きなモチーフが沢山詰め込んでありますので、ひとつでも気に入って貰えると嬉しいです。

美術部門 作者コメント

『花』 創大1年 田原美帆



このキャンパスの花は、創価大学のキャンパス内に咲いていたものです。創価大学に入学した頃の頃にふと撮っていた写真をもとにしました。スマホのカメラロールを見た時は、なぜ撮ったのかすら思い出せませんでしたが、シャッターに納めたのだからきっと当時の自分の心に響いたのだらうと思うと、無性にこの花を描きたくなりました。花の美しさ、力強さ、儚さ、柔らかさが少しでも表現できたらと思います。

『飛翔』 短大2年 大澤日花



行く手を阻むような分厚く暗い雲に立ち向かい、晴れやかな空を目指す鳥を描きました。これは人が何かに挑戦する場面で、幸先が悪かったり、途中で躓いたり、し終えた後の結果が悪かったりという様子をこの絵で表現しました。明るい空を信じて諦めない気持ちを込めて、右下の鳥は燃える炎をモチーフにしています。この絵のこだわりは雲の色です。本物に近づけるように、グラデーションを意識して描きました。

美術部門 作者コメント

『秒夏』 短大1年 川西智恵



夏の終わりをテーマとし、背景は朝風寮生である私にとって馴染みのある文学の池にしました。いつも目にする景色に、花を過大にしたり、マンガチックな少女を描くことで、非現実感を生み出すことが出来たと思います。また、真ん中に立つ女の子は女性そのものと、夏そのものの両方の意味を含ませています。この絵を見て、一瞬でも現実を忘れることができた、夢の中にいるような感覚を感じ取って貰えると嬉しいです。

『Flower』 創大3年 小山文花



今まで絵を描いてきて、観念的な、抽象的なものを書くというのが1つの目標でした。創価芸術展ではその目標に少しずつ近づいていこうという気持ちで描いています。今回は花と人物のモチーフを組み合わせるという試みでした。自分の頭の中にあるものを実際に描くのは本当に難しかったと思いますが、イメージに近い色は表現できたと思います。自分の鏡のような作品になりましたが、たくさんの人に見てもらって、何か共感のような感情を抱いてもらえるような作品になっていたらいいいと思います。

美術部門 作者コメント

『Hell And HELL』 創大2年 大山純一郎



天国と地獄と言われるが、実際は地獄しかないのではないか、これを表現した作品になります。

左側の鬼が握っていると刀は鬼丸国綱といって、天下五剣の1つの刀になります。かつて鬼を切ったと言われる刀でもあり、それを握っているということは人間に恨みがあり死後も地獄の番人になって人間を裁いてるようです。

右側は右上の爆発を花火にも捉えられるし、命の爆発を繰り返し輪廻転成を繰り返してるようにも捉えられます。

また骸骨が飲んでいるのが酒で幸せそうにも見えるし、そこにとどまらせるためのドラックにも見えてくる。見た方や考え方によって捉え方が様々な作品です。死後の世界はどんなものなのか考えてみてはいかがでしょうか。

『宝友』 創大4年 本田沙也香



美術部46期の執行期を描きました。あまり時間がない中での制作だったのですが、当時の執行時代を思い出しながら描くことができ、また自分自身最後の創価芸術展で、この絵を描くことができて良かったです。

美術部門 作者コメント

『北海道・十勝』 創大3年 大野優奈



今回描いたのは、実家の畑とその間にある道です。広島出身の母が、十勝の景色が大好きだと言っていたので、今回描きました。十勝は、今の朝ドラの舞台でもあるので、十勝の広さと鮮やかさを知っていただけたら嬉しいです。

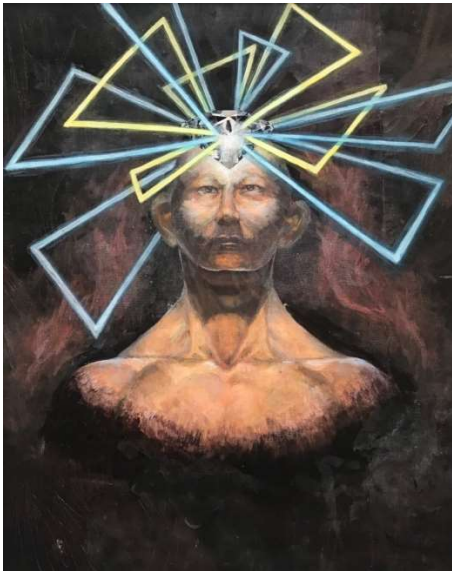
『待ち人』 短大2年 山崎未来



女性の、芯から咲き薫る美しさの表現に努めました。藤は、女性らしさの象徴です。着物にあしらった百合で純粋さと可憐さを、梅は厳しい冬を越え春を告げることから、忍耐と力強さを表現しています。帯の大きな縦の曲線は立涌といい、雲や湯気が湧き上がる様を表したものです。そこに、常に上昇していこうという決意をのせました。題にした《待ち人》という言葉は、人だけでなく、人生の転機・好機のことも指すのだそうです。

美術部門 作者コメント

『夢をみる』 創大2年 菅生梨々子



中3で描いた同じ題の版画をベースに、大事な1人である相棒の「今の自分は大大嫌いでも未来の自分は大好きだ」という言葉からこの絵を描いた。

ポップスの歌詞のような、クサイアイデアだけど奮起させてくれる絵が描きたかった。

苦手な人物で苦しかったが、その分たくさんの学びのある製作だった。

『ユリイカ／日々』 創大2年 竹澤蓮



見たくないものから目を背ける自分の象徴と、それに向き合う勇気を描きました。

美術部門 作者コメント

『WONDER』 創大2年 野見彩珠



この「WONDER」は、私が創価大学に入って感じたことを表現した作品になります。新たに自分の可能性を拓けたこと、まだ見ぬ未知の世界の存在を知ったこと。理解できないような不思議な物事に驚き、戸惑いながらも毎日楽しんでいったこと。キラキラ輝く周りの人たちに憧れたこと、そして、いつか自分もそうなりたいと思ったこと。そんな目まぐるしくて色鮮やかな私の世界を、楽しんでいただけたら幸いです。

立体作品

『受け継ぐ創価芸術』 短大2年 川添あさひ



私は、今回の創価芸術展が第30回という節目の年であるため、自分の思いを込めたケーキを作りました。左右にある白鳥は、創価芸術展の原点の場所が白鳥体育館であったことを知り、原点を忘れてはいけないとの思いを白鳥で形にしました。また、周りのガーベラの花は、挑戦という花言葉を持ちます。自分自身が創価芸術展に挑戦できたことをガーベラの花で表現しました。

美術部門 作者コメント

『過去を偲び、未来へ繋げる』 創大4年 熊谷きとえ



家中に飾られていた刺繍作品に対して緻密で非常に美しいと感銘を受けたのは祖母が亡くなってからだった。この想いを伝えられないことを後悔する中、ビーズ作品を作成する機会が訪れた。私は祖母との繋がりを形あるものとして残すことで償いたいと思った。その結果、巾着に祖母の作品で最も好きな目隠し鬼をモチーフにし、風景画では実家の襖を開いて外に出ていくイメージで制作した。後悔を糧に少しでも私らしく前に進みたい。

『時空を超えて』 創大1年 和田侑佳



まず、平らでガラス製のこのお皿を見たとき、思い浮かんだのが、水面でした。そして、水面から連想されて、金魚をメインにしたデザインにしようと試みました。しかし、それだけでは物足りなさや迫力が欠けると思い、城下町をイメージした背景に至りました。城下町にしたのは、"のぞいてみると、今はなき町の風景が水面を介して映り込んでいる、浮かび上がってくる、今と昔が繋がっている"そんな物語を思い描いたからです。

美術部門 作者コメント

『誓』 大学院2年 大部栄子



ブラジルの土とくすりで作りました。日本の創立者とブラジルにいる自分と地球と宇宙を感じ地球平和の誓いと祈りを込めて、ブラジルの陶芸家本間秀子先生のご指導のもと製作した作品です。

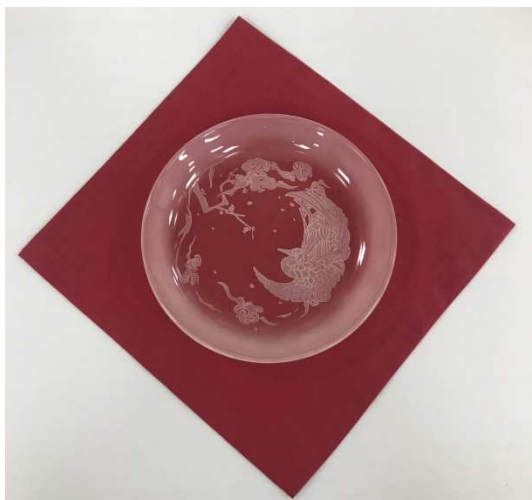
『追想』 創大4年 東郷良咲



創大の中で好きな場所の1つである「周桜」を描きました。私にとって「周桜」はいつも授業やクラブに行くときの通り道でもあり、大好きな友人との帰り道でもあり、日々創大建設に奔走する大尊敬の仲間たちとお花見をした思い出の場所でもあります。私は次の春に卒業し八王子を離れてしまいますが、この景色を忘れたくないと思い描きました。

美術部門 作者コメント

『冬は舞う』 創大1年 六車絵美



この作品はサンドブラストという特殊な砂で硝子を削ったものです。透明感ある白雪のような情景と自然界の力強さを表しています。この作品をきっかけに美しいものに目を止められるようになっていただけたら幸いです。

『芽生える椅子の少女』 創大4年 小林有希



今年の創価芸術展は、30 回展という節目の年であると同時に、私にとって、大学最後の展覧会となります。そのため、作品を出展するにあたり、後悔のないよう、全力で創作に取り掛かろうと決意しました。

そして、以前から構想を練っていた、約 75 センチの、通常より大きめの球体関節人形と、

美術部門 作者コメント

その人形が座る椅子の制作に取り掛かりました。

今回作った球体関節人形は今まで作ってきた人形の中で、一番大きなものということもあり、細部まで仕上げるのにとても苦労しました。

特に頭部については、納得いくまで何度も作り直し出来上がりまで 1 ヶ月以上を費やしました。

そして、人形と同じく制作に苦戦したのは、人形用のアンティークチェアです。

デザインや設計など、一から独学で椅子作りに挑戦するのは想像以上に大変でした。特に、角材から切り出し加工した猫足に、さらに丸みをもたせることに苦労しました。椅子の制作は試行錯誤の繰り返しでしたが、満足いくものが出来て良かったです。

私の好きなもの、そしてやりたいことを全部詰め込んだ作品ですが、球体関節人形の、可愛らしくもどこか不思議な世界観を表現できていれば良いなと思います。

『約束』 創大2年 伊藤響



ある人との鍋でもつつきながら話そうよという約束を思いながら作りました。

『勇往邁進』 創大4年 本田沙也香



龍の中を空洞にする かつ、壺に巻き付いたり浮かせたりと、とても難しかったです。特に龍の鱗に立体感が出るようにと頑張りました。